

支笏洞爺国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会

資料 6

これまでの成果例（1）

アクティビティコンテンツの新規開発・質の向上

- 日本の国立公園コンテンツ集に14コンテンツ8事業者掲載（昨年10コンテンツ6事業者）
- ナイトタイムの利活用としてナイトカヌーやナイトシュノーケリングなど宿泊に繋がる夜間アクティビティコンテンツを開発し、来年度以降自走予定
- 支笏湖地区にてアドバイザーを招聘し、モデルツアーの実施や台湾市場へのSMSを利用したプロモーションを実施

①コンテンツ開発

- 日本の国立公園コンテンツ集に掲載し、コンテンツの充実を図った
- ナイトタイム活用のため夜間コンテンツの開発や試験ツアーを実施
- アドバイザーを招聘し、モデルツアーを体験してもらい、意見を基にブラッシュアップを実施

美しい水を感じるカヌーツアー



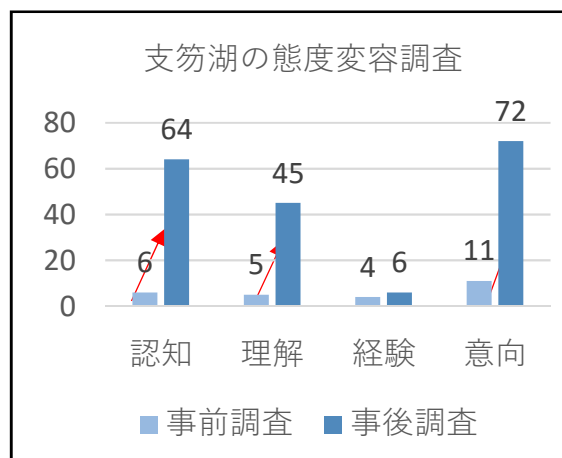
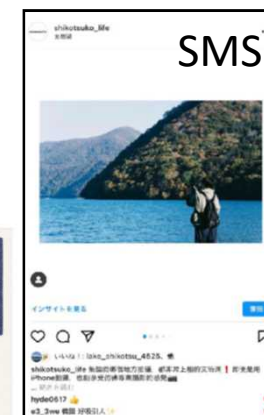
アドバイザー招聘
モデルコース例



②台湾市場へのプロモーション

※現段階でコロナ対策に成功し、訪日外国人の早期回復が見込まれる「台湾」をターゲットに設定

- SMSのプロモーションでは、開始3ヶ月で1,334のフォロワーを獲得
- 台湾国内のカフェ18店舗の協力によりマップ5,000枚、ポストカード3,000枚配布（予定の倍数配布）
- 台湾では「支笏湖」はあまり馴染みのないエリアではあったが、プロモーションによる効果で、認知度と理解度が大幅に増加
- マーケットリサーチでは78%がアクティビティに興味を持ち、そのうち82%が支笏湖へ行きたいとの結果がでた



支笏洞爺国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会

これまでの成果例（2）

支笏湖地区での受入環境整備と魅力向上

- 支笏湖ビジターセンター来場者が約1.2倍（インバウンド約1.5倍）に増加
（2016年228,924名（内インバウンド25,876名）→2019年267,724名（内インバウンド38,176名））
- 支笏湖ビジターセンター内外でのゆったりとした快適な時間を過ごすための滞在空間の向上・景観改善・防減災
（展望デッキ・充電スポット・VR映像展示、電線地中化）
- 滞在拠点施設やビューポイントにおける多言語対応の充実、フリーWi-Fiの整備により受入環境を強化

① 支笏湖ビジターセンター内外の滞在空間の向上

- 展望デッキ・充電スポットの新設とWi-Fi整備で、ゆったりと快適に過ごせる空間へ
- 常設のVR映像展示を先行導入
※ 樽前山の火口や苔の洞門などの立入規制エリアや、水中ダイビング、カヌーなどを疑似体験できるゴーグルとタッチモニターを設置



② 多言語対応・受入環境強化

- 標識等の多言語化とUni-Voice導入（タイ語を含めて6言語対応）
- 園地内のフリーWi-Fiの整備



③ 電線の地中化による景観改善と防減災対応

- 景観改善や風倒木の断線リスクの軽減



支笏洞爺国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

● 訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 20.4万人)
2016年 2017年 2018年 2019年
11.1万人 → 19.0万人 → 17.9万人 → 17.1万人

これまでの成果例 (3)

① 公園周辺地域の利用推進と連携

- 札幌国際スキー場のオフシーズン活用のため定山溪とシャトルバスを運行
- ウポポイ(民族共生象徴空間)との連携のため「ウポポイ活用促進プラットフォーム」を開設



② ビジターセンターにおけるコンテンツ発信

- ビジターセンター(支笏湖・洞爺湖)にデジタルサイネージを設置し、約60種類のアクティビティを紹介するコンテンツを発信。観光案内所との併用による相乗効果の他、緊急時や臨時休館の際の情報提供ツールとしても活用

③ 湖面利用ルールの策定と利用者負担の検討

- 支笏湖の利用集中エリアで適正利用のルールブックを配付更に周辺整備に合わせた利用者負担の仕組みを検討中



取組による成果・効果

・公園内延べ訪日外国人利用者数は2016年比で2019年は約1.5倍に増加。訪日外国人宿泊客延べ数も2018年に1.5倍に増加。訪日外国人平均泊数は支笏湖地区で右肩上がりにより上昇(1.21人泊)し、定山溪地区も微増(1.03人泊)



今後の課題・強化が必要な取組

- ・2021年北海道開催のアドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)に向けた受入体制の整備
- ・空港や都市からの利便性を活かしたマイクロツーリズムの推進
- ・コロナ禍でニーズが高まったワーケーション等の新たな利用形態への対応



・滞在拠点整備により閑散期の利用も促進

・脱炭素化・ゴミ削減・オーバーユースや利用者負担の検討など、持続可能な観光地づくりを推進

・ウポポイ(民族共生象徴空間)や縄文遺跡群など公園区域外との更なる連携と新たな景観資源の活用



中部山岳国立公園南部地域満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（１）

利用拠点エリアの改善（上質化など）により上質な体験を提供

- 民間施設のリニューアルを図り、インバウンドはもとより国内観光客にとっても上質な体験の提供が可能となった
- また、プロジェクト開始以降、景観改善に関する勉強会を重ね、利用拠点の上質化の計画検討がスタート

① 平湯温泉バスターミナルの休憩所新設

- バス待ちのための屋根しかなかったところ、**待合所を新設**
- 待合所内には、**平湯の歴史・文化を紹介する展示により、バス待ち時間を体験の一環に**



② ロープウェイのリニューアル

- **ゴンドラ・駅舎含めてR2にリニューアル**。鍋平駅の駅舎施設は上質に
- 駅舎での**滞在時間の増にも貢献**



③ 上高地の通信インフラの整備

- 比較的軽装備でもアプローチ可能な横尾まで光ケーブルを整備
- 横尾までの各拠点には、利便性向上のみならず、防災機能強化も目的に**Wifiを整備**

④ 利用拠点の上質化の計画検討と適正な誘客促進のスタート

➢ 乗鞍高原

行政、地域が連携して、「**のりくら高原ミライズ**」が策定され、今後、利用環境の向上、施設リノベーション、アクティビティ充実等を進める予定



➢ 利用ポイントのリニューアル

自然の質が高い場所で利用者が多い**木道等の施設をリニューアル**



乗鞍高原・一ノ瀬園地



乗鞍岳・畳平

これまでの成果例（２）

国立公園の情報発信機能の強化

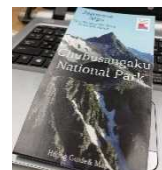
- 国立公園の最新情報を届ける、地元関係者で運営を想定した英語版ウェブサイトを整備。**SNSでの情報提供も。**
- また、**ブランディング**や幅広い関係者による国立公園の盛り上げを図るための取組もスタート。

① 英語版ウェブサイト・SNSの整備

- 協議会の**プロモ実行チームで協働運営**
- また、公式Facebookを立ち上げ、**天候や利用状況の迅速な情報提供の実施**や、**職員による特別企画**も実施

② 登山ガイドマップの英語版作成

- 登山ガイドマップの英語版を作成。さらに、**登山道のグレーディングや歴史・文化情報も加味**



③ 中部山岳国立公園南部地域ロゴ

- 持続可能な公園づくりとブランディングのため、コンセプトを示す**ロゴマークを作成**

Birthplace of the Japanese Alps
(日本アルプス発祥の地)



中部山岳国立公園南部地域満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（3）

保護と利用の好循環の推進

- 国立公園の基本理念である「**保護と利用の好循環**」を実現する商品の発売開始
- 山岳利用にあたっての**利用者負担の仕組み**について関係行政機関、山小屋事業者等との調整を開始

① 乗鞍高原カフェの売上3%

- **売り上げ3%を環境整備に寄付。**主に乗鞍高原産の商品、ごみゼロなども実行



② 五色ヶ原の森・ライチョウツアー

- 「五色ヶ原の森」のトレッキングツアーコースを**2019年に拡充。ガイド料の一部は整備等の環境保全経費**
- R2に観察ルール整理、**参加費の一部をライチョウ保護へ充てるツアー**をR3実施に向け検討中



③ 利用者負担の検討

- **山岳エリアの登山道、トイレ等の整備・維持を持続可能**なものにしていく必要
- コロナ禍も重なり、環境整備の受益者である利用者による負担の仕組み作りを検討中



これまでの成果例（4）

AT、行政界によらない等の新たな視点での利用推進

- 日本のアルプス発祥の地として海外とのつながり深い3,000m級のハードアドベンチャーと麓のソフトアドベンチャーを組み合わせた**長野県と連携したATの推進**や行政界によらない**国立公園だからできる乗鞍岳統一プロモーションを実施**
- また、**国立公園の世界観・結界感を創出し、気分を盛り上げるワクワク感の創出**や**特別な体験を開始**

① アドベンチャーツーリズムの推進

- 日本アルプス発祥という歴史的な地名度を生かした**山岳と麓の多様なアドベンチャーにより、国内外に刺さるストーリーを作成**



② 乗鞍岳統一プロモーション

- 県境をまたがる**乗鞍岳の統一プロモーションで一気通貫の利用を推進**。乗鞍関係者間による実行チーム立ち上げ



③ 世界観・結界感の創出

- 国立公園での楽しみを盛り上げるべく、例えば、**上高地でのキャンプ前にビジターセンターでのレクチャー受講をルール化**。注意点だけでなくワクワク感を高めるレクチャーを実施

④ ナイトタイムエコノミーなど

- **これまで活用していなかった時間帯の活用による新たな体験**を提供開始
- 今後、**閑散期を検討**



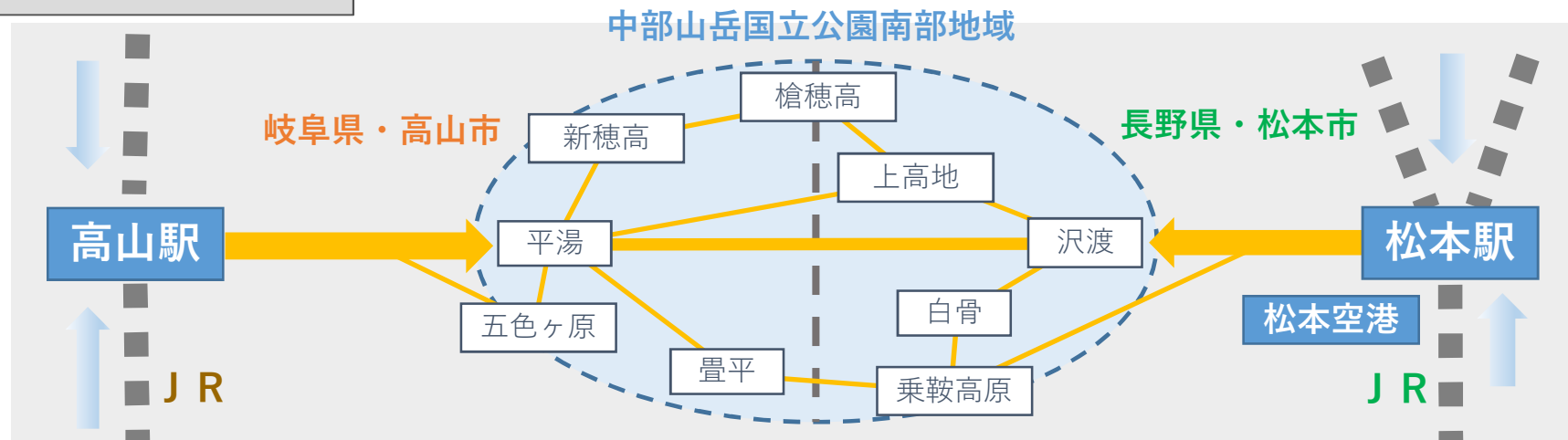
中部山岳国立公園南部地域満喫プロジェクト 2020年までの主な取組と成果

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 14万人)

2016年	2017年	2018年	2019年
6.7万人 (34.3万人)	→ 7.0万人 (39.9万人)	→ 5.4万人 (40.7万人)	→ 7.5万人 (46.1万人)

() は地域協議会独自のカウントによる参考値

取組による成果・効果



- 松本駅、高山駅などの**国立公園外と国立公園内を含めた動線の利用提案**がされはじめ、**県境をまたいだ関係者間の連携を始めることができた**
- これまで連携したくてもできなかった**公園外の事業者等の方との連携体制も構築**。中部山岳国立公園パートナーシップとして、まずは**11事業者※と国立公園ブランド価値を発信**
- エリア全体としてWifi、多言語などの利用環境の向上、利用拠点ごとの**景観改善、サービス充実、持続可能な地域づくりなどの議論が活性化**（次期SUPに複数の取組を記載）

※カモシカスポーツ、岐阜新聞、信濃毎日新聞、大信州酒造、高山信金、飛弾産業、飛弾山椒、飛弾信組、松本信金、松本ブルワリー、松本山雅FC



各者の得意な取組で国立公園の盛り上げを2020.12にスタート

今後の課題

- 国立公園外とのさらなる連携強化**、県境で途切れない**エリア全体のブランディングと発信**
- 気候変動、脱プラ**など地球規模問題へのコミット、保護と利用の好循環の充実による**持続可能な観光の推進**
- 施設単体ではない、エリアとしての**ホスピタリティの最高ランクへの引き上げ**、リアルタイムの一元的な情報発信
- 日本独特の**山小屋文化とセットにした3,000m級の山岳エリアの魅力発信**
- オーバーユースを発生させずに利用推進を図るための、**閑散期の底上げによる利用平準化**

富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

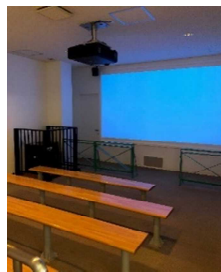
これまでの成果例（１）

箱根ビジターセンターの機能強化と密を避けた利用形態の実現

- ・箱根ビジターセンターリニューアルにあたり、解説文や展示マップ、シアタールーム等の**多言語化やデジタル化を強化**
- ・アフターコロナを見据え、屋外広場を活用したコンサートやキッチンカー誘致など**密を避けた新たな利用形態の実現**

①多言語化&デジタル化

- ネイティブライター現地取材に基づく、多言語解説文
- シアタールーム高画質、デジタルサラウンド対応
- QRコード&スマートフォンによる解説文デジタル対応



②密を避けた新たな利用形態の実現

- 屋内音楽コンサートを、アウトドアチェアを新たに調達して、屋外コンサートに転換
- 地元のハンドドリップ式カフェやキッチンカーを初誘致



これまでの成果例（２）

国立公園特集ページ（英語）の新規開設とプロモーションの実施

- ・箱根地域のインバウンドサイト「HAKONE JAPAN」に富士箱根伊豆国立公園特集ページを新規開設
- ・外国人旅行者を誘客している首都圏の**ホテルコンシェルジュ等へ営業実施**
- ・箱根DMOと緊密に連携してSNSなどを活用した**海外プロモーションの実施**

①国立公園特集ページ新規開設

- 箱根地域のインバウンドサイト「HAKONE JAPAN」に英語50,000Word相当追加

③ホテルコンシェルジュ等へ営業実施

- 首都圏のホテルコンシェルジュ（20社程度）に対して、直接営業

②SNS等を活用した海外広報

- 箱根DMOと連携して欧米豪向けに「Japan Awaits」をテーマにSNS広告配信

富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（３）

芦ノ湖地域でのアクティビティツアーの充実と水上交通のアクセス改善

- ・ナイトタイム等活用調査検討業務による事業者等の意向や連携、利用者ニーズの把握を通して、**アクティビティツアー新規プログラム開発促進**
- ・湖尻集団施設地区と環境省所管地白浜の**アクセス改善**による**芦ノ湖地域の一体的な魅力向上**

①新規プログラム開発促進

- ナイトタイム実証実験の一環として、環境省所管地である芦ノ湖白浜発のカヤックツアーや湖尻集団施設地区発の早朝トレッキングツアーを初実施（2021年3月）
- 湖尻集団施設地区の野営場とカヤック事業者をマッチング（2021年度アクティビティ開始予定）
- 箱根ビジターセンター発着のEバイクツアーを初実施（2020年秋）



②芦ノ湖水上交通のアクセス改善

- 地元ボート事業者棧橋の共用や浜辺への小型ボート乗り入れにより、芦ノ湖地域の一体的な魅力の向上、水上交通のアクセス改善

③利用動態調査

- 先行して、箱根地域の交通渋滞解消を目的とした調査を行い傾向を把握



富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクト 2020年までの主な取組と成果

●訪日外国人国立公園利用者数

2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
234万人	258万人	258万人	299万人	309万人
(1.4 %)	(1.4 %)	(1.6 %)	(1.7 %)	(1.6 %)

() は標準誤差

◆「富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクト推進方策」策定（2019年4月）：富士山・箱根地域を重点として展開

○地域協議会：富士山・伊豆諸島

● 富士山における適正利用推進協議会

- 4ルート共通標識ガイドラインの設定
- 「富士山における適正利用推進プログラム」策定（～2025）
- 官民協働の会合（年1～2回）

● 国立公園伊豆諸島地域連絡協議会

「伊豆諸島ビジョン ～国立公園でつながる伊豆諸島」策定

①富士山の適正利用

- 世界文化遺産と連携した「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた管理
- 外国人利用者への情報発信強化
富士登山オフィシャルサイト（英語版）の構成見直しと内容刷新



②富士山麓のエコツーリズム促進

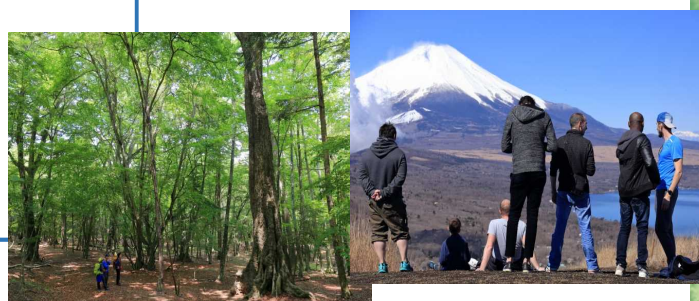
- 御中道解説看板の多言語化
- 富士山須走口五合目園地の整備：
ビジターセンターの新設
- SDGsを意識した富士山麓エコツアーや
ワーケーションプログラムのプロモーション

○公園地域全体のプロモーション

- 「富士山がある風景100選」情報発信
- 先進的事業者と連携したVJTMやTEJ
等の展示・商談会への積極的参加
- 自然と文化の魅力を伝える体験型コン
テンツの再発掘

取組による成果・効果

- 国内外共に安定した来訪者数
- 適正な利用の浸透
- 非混雑地域への利用の拡大
- ジオパークとの連携：箱根・伊豆半島・大島



今後の課題

- ◆ オーバーツーリズムの分散
- ◆ 適正な利用の維持と推進
- ◆ 域内周遊・循環と利用地域の拡大
- ◆ 長期滞在利用者・リピーターの増幅
- ◆ 良質なエコツーリズムの普及
- ◆ 外国語情報・ガイドの充実化

